

処理を考える (27)



今回から、「図表講習会」でお馴染みの久保洋子さんに「図・表・写真の処理」についてシリーズでお願いしました。

図・表・写真などの処理

図・表・写真など墨字の本の中にある文字以外のものは文字以上に視覚に訴えるものです。

ここでは次の項目に分けて話を進めて行きます。

1. 基本的な考え方
2. 図・表・写真などの原本に占める役割
3. 具体的な処理の方法
4. 絵・写真を説明する時
5. 図を説明する時
6. 表を説明する時
7. その他

1. 基本的な考え方

録音図書製作には、まず第一に原本に忠実に、著者の意をそこなうことなく音声化することが要求されます。この観点から云えば、原本の中のすべての図・表・写真などを、説明をきいて再現できるように、本文中に組み込むことが求められます。

しかし、ここで考えてみなければならない問題が二つあります。

①墨字の本の図・表・写真などは読者が自分の都合のいい時に何回でも見ることができ、時には全く無視して読み進むこともできるのに対して、テープではそれが、不可能ではないにしても大変難しい。

②墨字の本の中の図・表・写真などが本文とは際立って異なる存在であるのに対して、テープでは本文と何ら変わらぬ“声”になってしまう。

ということです。

従って音声訳者が本文中に組み込んだ図・表・写真などは、墨字本のそれと同じ役割を果たすことはむずかしいと考えなければなりません。

図・表・写真などのある本を音声訳する時は、以上のことを踏まえて音声訳者の責任で何らかの処理をすることが必要ですが、その場合上に上げた欠点を出来るだけ補うような方法を考えることが大切です。ここで云う処理とは、

- ・ 図・表・写真などを説明するのかしないのか、
- ・ 説明するとすれば本文中のどこですのか、
- ・ どの程度の説明をするのか、
- ・ 説明しない時には、どこでどのように断わるのか

など、図・表・写真などの音声訳に関わるあらゆる問題を含んでいます。

2. 図・表・写真などの原本に占める役割

処理の方法を決めるには、図・表・写真などがその本の中でどういう役割を果たしているかを判断しなければなりません。内容について知識を持たない本をやむを得ず音声訳する場合には、これは大変難しい仕事です。担当の職員や場合によっては校正者の意見も参考にして慎重に判断することが大切です。

一般に、本の中で図・表・写真などの占める役割は次のように分類できると思います。

1. 図・表・写真などを主として本が構成されている。
2. 図・表・写真などがなければ本文が理解できない。
3. 図・表・写真などは本文を補強するものである。
4. (さし絵などのように) 本文のイメージを膨らませるもの。
5. (項目の変わり目のイラスト・ページを飾る模様など) 本文の内容と関係のないもの。

本文の中のすべての図・表・写真が上の項目中の一つに当てはまるわけではありません。一つひとつの図・表・写真などの処理を考えると同時に本全体の構成も探りながら読み進んで行くことが必要です。

3. 具体的な処理の方法

では、墨字の本のそれと同じ役割を果たすことのむずかしい図・表・写真などを、

具体的にどう処理するのか、ここでは処理の方法を考えてみます。

〔1〕全体の構成について

全体の構成は、

- ◆図・表・写真などが原本にどのような役割をしているか、
- ◆図・表・写真などを含めて原本の内容を正しく伝えられるか、
- ◆利用者の使い勝手はよいか、

などを考慮して、慎重に決定して下さい。

処理の仕方は最後まで統一されていなければなりません。

図・表・写真などを文章化するとその内容が本文と重複することがあります。複雑な図、大きな表などは説明の文章が大変長くなります。

このように、すべての図・表・写真を本文中で説明することは必ずしも適当でない場合も多いのです。そこで、ここでは全体の構成の仕方として考えられるいくつかの処理を上げてみます。

(1) すべての図・表・写真などを本文中の適当な所で説明する。

(2) 説明が本文と重複する図・表・写真などは説明を省略する。

本文中でページ、タイトル等を読み「説明は（以上の、以下の、）本文と重複しますので省略します」とコメントを入れる。

(3) 録音図書凡例で処理の仕方を断る。

以下のような場合にはあらかじめ処理の方法を録音図書凡例で断ることが必要である。

①録音図書凡例で「説明が本文と重複する図（表、写真）は、タイトルとそえられた説明文を読み説明は省略します」と断り、本文中ではページ、タイトル、説明文などの後、「説明省略」または「図（表、写真）おわり」とコメントを入れる。但し、短いタイトルだけを読み図（表）おわりでは入れる意味がないのでその場合は処理の方法を考え直して下さい。

②写真などでそえられた説明文を読むことで大体の想像がつくものについては、録音図書凡例で「写真はそえられた説明文を読み説明は省略します」と断り、本文中ではページ、タイトル、説明文のあと「写真おわり」とする。

③顔写真のように説明困難なものについてタイトルも含めて図・表・写真などを省略する。

ex. 『各項目ごとに執筆者の顔写真がありますが省略します』

④章、節など項目ごとに図・表・写真などをまとめて録音する。トーンインデックスを利用すればなおよい。

ex. 『図（表、写真）は各章（節）の最後にまとめて録音してあります。なお各章（節）の初めにはトーンインデックスを入れていますのでご利用下さい』

⑤すべての図・表・写真を別テープに録音する。これは、

- ・本文だけを読み進むことが出来る。

- ・二台のテープレコーダーを使って必要な時に図・表・写真などの説明をきくことができる、などの利点があります。

この場合も本文中では図・表・写真などのタイトルを入れるなど図・表・写真などの存在がわかるようにしておかなければなりません。図(表)に通し番号をつけて本文中でこの通し番号を読んでおくと、別テープの利用には便利です。トーンインデックスが利用できれば、図(表)ごとに初めに入れるとなお良いでしょう。

ex. 『この本には〇枚の図(表・写真)があります。図(表・写真)は別テープ、テープ第〇巻に録音しております。図(表・写真)には通し番号をつけてあります。』

注意! 図(表・写真)を省略する、又は図(表・写真)の説明を省略する時、出来ればどんな図(表・写真)があるのか、省略する理由をそえて断って下さい。

つづく

今月の練習問題

例文1

*アンダーラインの読み方

西の壁、マホガニーの食卓のフランソワの席の真向いに、ディートリッヒの肖像写真が二葉、純銀の額がくに入って飾られている。ディートリッヒは、フランソワみたいな男を召使にも使わないだろうが、召使の方の邪よこしまな執心は相当のものらしい。フランソワは暇さえあればポケットの純白のハンカチで、額のガラスを磨いている。一葉は、一九三五年にあのセシル・ビートンが撮った瞋目こぼれのプロフィルである。羽根飾りのある帽子の下から柔らかなブロンドの巻毛が零れ、新月さながらの細く引かれた眉は、女の薄情けの印しるしのように冷たく流れ、ツンと上向いた鼻の先から酷薄そうな肉の薄い唇を経て、尖った小振りの顎までの鋭い線は、あらゆる男をついそこまで誘っておいて、突然笑って拒んでしまう気紛れを想わせる。いま一葉は、一九三一年に作られた「間諜X27」のディートリッヒである。キキは古いビデオで観たことがある。第一次大戦中のウィーンで、ロシアの諜報員に恋してしまったオーストリアの女スパイの物語だった。彼女の前身は、紫の夜霧が流れるウィーンの街角に立つ娼婦である。男の心を小鳥のように捉えて離さないテクニックを買われてスパイになり、目覚ましい働きを見せるが、やがて恋に盲いた〈間諜X27〉は故国を裏切ることになり、反逆罪で暁の刑場の銃口の前に立つ。最期に身につける衣裳を選ぶ自由を与えられた彼

女が纏まとったのは、誇りに満ちた娼婦の服だった。そのラスト・シーンに流れる〈ドナウ河の漣さざなみ〉のワルツを、誰にも言ったことはないが、キキは忘れない。自分だって娼婦の服を選ぶだろう。キキは泣きながら、激しくそう思った。

例文2

* 漢字の処理

ドクダミ

ドクダミは、やや湿気の多い半日陰を好んで群生する多年草で、全国各地に自生しています。

ドクダミという名の由来は、「毒を痛いためる」あるいは「止める」というところからきたという説と、独特の臭いから毒があるのではないかということで「毒溜」とも呼ばれたという説と毒痛みの意味で毒や痛みに効くことから名づけられたという諸説があります。また、ドクダミは、昔から民間薬として用いられ、十の薬効があることから「十薬（重薬）」という生薬名がついています。

ドクダミの特異な臭いは、デカノイルアセトアルデヒドやウラリノールアルデヒドによるものでカビの発育阻止と抗菌性がありますが、日干しにするとこの臭いは消えます。生の葉は外用として、腫れもの、皮膚炎や湿疹、水虫、タムシなどの治療に有効です。

また、煎じて飲むなども同様に利用されていますが、ドクダミの葉にはクエルチトリン、花穂にはイソクエルチトリンを含み、ともに強心作用と利尿作用、毛細血管強化作用があり、またカリウムを含むことから高血圧、動脈硬化、脳卒中の予防に有効です。このドクダミのクエルチトリンとベーターカロチンを併用すると、悪玉の活性化酸素を抑え、ガンや老化に対する薬効が強まることが最近の研究で明らかにされています。

例文3

* 表記が問題

読み書き並行論

「漢字があって日本語が存在するのではなく、日本語があって漢字がそれとかわりをもつのである」（野村雅昭『漢字の機能の歴史』）、だから必要以上に漢字にこだわってはいけないと、理屈ではよく分かっているつもりだが、新聞や雑誌の記事で「交ぜ書き」を見ると、なんとなくその日の御飯がまずくなる。頭では分かっているも気持ちでは許せないらしい。

読者諸賢もご存じのように、交ぜ書きというのは、「骸骨」を「がい骨」、「拉致」を「ら致」、「改悛」を「改しゅん」と書く方法のことである。この原稿に取りかかる前、たまたま「日本農業新聞」（七月二十六日付）を眺めていたら、アメリカの米作事情が載っており、その大要はこうであった。アメリカの米生産高は、南部の不作もあって急激に落ちてきている。もちろん在庫量も落ち込んだ。そこで今年は減反の

ための転作率はゼロになるらしい。つまりアメリカの米農家も減反政策できびしいところへ追い込まれているのだが、今年度は減反しなくてもすみそうだという記事である。そして記事の見出しが、

〈米国では転作ゼロに緩和／不作で需給ひっ迫〉

と交ぜ書きになっていた。大きな見出し活字で交ぜ書きにされるといっそう間が抜けて見える。大活字で「逼迫」となっていれば迫力があつたのに惜しいことだと思いつつながら、こうやって原稿を書いているところだ。

(中略)

なにより困るのは、交ぜ書きが前後の繋がりを一瞬、曖昧にしてしまうことである。「いつから致されたのかは不明である」と書いてあつたりすると「らち」に惑わされて〇。五秒ぐらゐは意味がとれずにぼんやりしてしまう。「一日じゅう折かんされた」にしても同じ。「意味を漢字が担い、文法的な関係を仮名が受け持つ」という日本語表記の原則は伊達ではないのである。

そんなことを言っても読めなきや仕方がないじゃないかと思わぬわけではないが、ここで思い出すのは、あの親切な振り仮名のことだ。振り仮名となると、さらに国語学者の原田種成氏の名言が思い出される。

「振り仮名というものは漢字教育において常に傍らにいる教師である。」

たしかに振り仮名は、読者の傍らにいて絶えず読み方を教えてくれる。さらに振り仮名はことばの意味を富ましめてもくれる。たとえば戦前の国文学者、五十嵐力(一八七四—一九四七)は次のように言った。

〈『病気をだしに』と書く代はりに『口実』と書けば、口実てふ漢文風の熟語及び、だしといふわが俗語に伴ふ意義趣味が相並び、相和し、相助けて茲に一団の豊かなる意味を伝ふる。『無言』『饗宴』と書けば『しじま』『うたげ』といふ古語を知らぬ者も漢字に縋つて其の意義を知り得るのみならず、『しじま+無言+だんまり』といふ様に古語と漢語と俗語の三重の意義を伝ふることになる。〉(『新文章講話』明治四十二年)

誠実で、教養豊かで、お道化でもいて面白い教師、振り仮名を鹹首にしてしまったのはつくづく惜まれる。こんなにありがたい教師をどうしてお払い箱にしてしまったのだろうか。おそらく明治以来の文部省の理想が「読み書き並行主義」にあつたからだ。

先月の例文の処理例

第4章 がんとはなにか

カッコの処理です。

もっともはやく発見されたのが、伝染性単核細胞症^{*1}の原因とされるEBウイルスで、バーキッドリンパ腫、上咽頭ガン、ホジキン病の原因となることが分かっています。

この2行の文章の中にカッコで4つの補足があり、補足の中にさらにカッコで補足がある。つまり、短い文章の中に5つのカッコが使われています。普通にカッコを読み込んで戻りながら読んでも元の文章はほとんど分かりません。カッコの中の文章を注扱いにして注番号を音訳者が付け、文章の区切りのいいところで注の処理と同じように処理する方法もあるでしょう。ただ原文に「5つのウイルスが明らかになっています。」とありますので、混乱をさける為には5つのウイルスが出てから注として読み上げる方がよいでしょう。

「集団自殺」をとげたカルト教団からのメッセージ

この場合は注は切りの良いところで注を読み込むことになるでしょう。注をその場で入れると前の例題の同じく分かりに文章になります。注を近くで入れる場合は特に番号を付ける必要はありませんが、小項目の区切りで入れる場合は本文中では注番号をつけて言い添えておく方がよいでしょう。

二通りの読みがあって意味が異なるもの (56)

嘆息	タソク 嘆いてため息をつくこと。 タゾク 十分に気を配ると。	風	カゼ 人に対する社会全体の態度。空気の動き フウ 習わし。性格的、精神的な傾向。方式、やり方
項	ウジ・ウ 襟首、首の後ろの部分 コウ うなじ。事柄を分けた一つひとつ。	門中	トカ 瀬戸の中、海峡の中 モンチウ 沖縄で同族の結合体をいう
一目	イモク ただひと目見ること 一見。囲碁の用語 ヒトメ 一度見ること。目の中いっぱい。一望	大汗	タイカ 多量にかいた汗。 タイカ モンゴル帝国の支配者の俗称。

利用者から製作依頼を受けている原本

書名

- 『正統の哲学 異端の思想』 中川八洋著<西洋哲学> 350頁
- 『魂の幼児教育』 としくらえみ著 <教育> 100頁
- 『関節痛のための運動』 デーバ・ソベル、アサー・C・クイン著 <医学> 219頁
- 『変形性膝関節症の運動・生活ガイド』 杉岡 洋一著 <医学> 83頁
- 『大東亜戦争ここに甦る』 小室直樹著 <歴史> 442頁
- 『幼児のための人形劇』 フライヤフク著 高橋弘子訳 <教育> 125頁
- 『ドリームボディ・ワーク』 アルト・ミンデル著 <心理学> 253頁
- 『幸福の革命』 大川隆法著 <宗教> 187頁
- 『障害児保育の考え方と実践法』 辻井正著 <教育> 131頁
- 『世界史 B98年度用大学入試センター試験超対策問題集』
湯川晴雄著<教科書> 210頁
- 『灯 2月号』 灯発行所 <詩歌> 41頁
- 『IDNハンドブック 成分と作用がわかる本』 伊勢龍彦著 <医学>
- 『ディスカバリー世界の実相への接近』 <宗教> B5判 308頁
- 『ヨセフとその兄弟 III』 <宗教> B4判 562頁

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

今回引き受けて頂いた
原本とグループ

『はじめての人のダンス・レッスン』 竹村孝著	ロバータ
『カメの衣・食・住』 徳永卓也著 B5判	ICCB
『ニュースキン徹底知識』 伊勢龍彦著<化粧品>	〃
『教会と sacrament』 東京神学大学神学会	〃
『IDNがあなたを守る』 ニューライフ出版	えくてもあ
『JAPAN BAPTIST 第70号』 日本バプテスト同盟	〃
『JAPAN BAPTIST 第71号』 日本バプテスト同盟	〃
『世界史<超>暗記法』 別宮孝史著 <教科書>	テプライブライ-にしのみや
『これでも国家と呼べるのか』 小室直樹著	〃
『私のまわりは美しい』 松井るり子 <教育>	